

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0290100197		
法人名	社会福祉法人 介援会		
事業所名	あおやぎグループホーム		
所在地	青森市青柳2丁目9番28号		
自己評価作成日	令和7年7月7日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央三丁目20番30号 県民福祉プラザ5階		
訪問調査日	令和7年8月29日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

市街中心部にあり、地域交流や社会資源の活用ができる環境にあります。入居者様一人ひとりの人格や生活歴に合わせた会話等によるコミュニケーションの時間を大切にすると共に、意思を尊重するための支援を理念としており、入居者様個々が意思を主張できる、家族のような関係性を目指し、コミュニケーションを重点に置いています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホーム近隣には郵便局やスーパー、医療機関もあり、利便性が良く、恵まれた環境に立地している。また、近所への声掛けを意識していることから、地域との繋がりも感じられる。施設内は開放的な大きな窓からの陽射しで明るく、感染症対策を意識して定期的に消毒を行い、清掃も行き届いている。玄関には重要事項説明書等を掲示して面会者に見えるようにし、意見箱も設置している他、マニュアル等も細かく整備している。また、職員の意見はホームを良くするための大切な意見と捉え、日々の支援や計画に活かしている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着サービスとしての理念を理解・共有し、ケアに取り組んでいる。また、事業所理念は事務所やホールに掲示しており、確認している。	開設当初に作成した理念があり、職員や家族等の目に触れる玄関前の廊下壁面に掲示して、常に意識付けをしている。ホームでは、利用者が家族のように安心して、安全に暮らしていけるよう、理念を反映させたサービス提供に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に属しており、町内の行事に参加している。また、施設の行事にも参加している。	町内会に加入しており、定期的にある会合に毎回参加している他、地域住民から介護の相談を受けることもあり、地域福祉の拠点としての役割も担っている。また、地域の幼稚園の訪問もあり、利用者には喜ばれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して行事の報告等を行い、地域の方からも意見をいただき、サービスの向上に努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	年間を通して会議を行い、家族の他、地域包括支援センター等より意見をいただき、サービス向上に努めている。	2ヶ月に1回運営推進会議を開催し、利用者やホームの状況、研修等について報告をしている。また、会議で出された意見は、サービス向上のための大切な視点・貴重な材料と真摯に捉え、メンバーに意見を求めながら、サービスの質の向上、より良いホーム運営のために活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市役所の方と連絡を取り、運営推進会議の内容を伝え、サービスの向上に努めている。	運営推進会議には地域包括支援センターの職員が毎回参加しており、ホームの行事や研修等について報告を行っている。また、ホームの実態等を理解していただくため、自己評価及び外部評価結果や目標達成計画等を提出している他、成年後見制度の申し立てや各種制度利用についても相談し、市との連携を図っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束しないケアを心がけており、社内研修等において話し合いの場を設け、意見交換をしながら取り組んでいる。	身体拘束のマニュアルを整備している他、指針を備え、委員会を設置して、3ヶ月に1回会議を開催している。会議の内容は職員に周知しており、職員は身体拘束の弊害を理解している。ホームでは身体拘束を行わない姿勢で日々の支援に取り組んでおり、やむを得ない場合は家族等に説明を行う体制や、同意書の書式も整備している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員で虐待や高齢者虐待防止法を理解し、毎日のケアの中であってはならないことの意識を持ち、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	外部研修に職員を派遣して、成年後見制度を理解しており、管理者・職員が話し合いの場を持ち、活用できるように取り組んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居にあたり、契約書や重要事項説明書を説明して、入居者や家族から同意を得ている。また、料金や入院した場合の対応、退居になる場合についても十分に説明し、納得いただいた上で契約している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居時の説明の際に、外部の苦情受付機関を知らせている。また、玄関に意見箱を設置しているが、なるべく家族等の面会時に近況報告や相談等を心がけ、意見をいただいている。	玄関に意見箱を設置している他、苦情受付窓口等を重要事項説明書に明示し、ホーム入口の見やすい場所にも掲示している。意見等が出された場合は、解決に向けて取り組む体制を整備しており、利用者や家族の安心安全を意識したホーム運営に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	入居・退居の決定等については、ユニットとの話し合い等を基に決定している。また、運営に関わる事については、各ユニットの月1回のケア会議やミーティング等で、意見交換を行うように努めている。	月1回の会議等で、業務の改善策等を話し合っている他、毎日2回、申し送りを行っている。ホームでは職員同士、お互いに意見を伝えやすい環境作りに努めており、出された意見等は利用者支援、より良いホーム運営に向けて活かせるように取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパスシステムを基に、個人面談等により、話し合いの場を多く持つように努めている。また、管理者からの報告等を通じて、現場を把握するように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間の研修計画を作成しており、外部研修へ職員を派遣し、受講後は研修の記録を作成して、全職員に勉強会を開き、スキルアップに繋げている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域包括支援センターや他の事業所との交流を行っている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用を開始する前にも事前に面談したり、本人の意思を尊重すべく、安心を確保するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が希望として思っている事に近づけるよう、本人と相談しながら、サービスの利用を開始している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者と家族の希望と現状のすり合わせをし、必要としている支援を見極め、家族や本人に確認をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	理念のとおり家族のように接し、職員が介護しているという一方的な立場にならないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、近況報告を家族に送付している他、来所時も近況を報告している。また、定期的にイベント等を行い、入居者や家族が楽しめるように支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族や入居者の意向を聞き、電話での会話や外出等を支援している。	利用者に関わりの深い人物や懐かしい場所等について、入居時の家族等からの聞き取りやケアプラン作成時のアセスメント、毎日の暮らしの中での些細な日常会話から、自然に把握するように努めている。職員は利用者が話しやすい雰囲気作りも心がけ、新たな情報があった際は職員間で共有し、サービス提供に活かしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の趣味や性格を把握し、レクリエーション等、職員が間に入ってコミュニケーションを取っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族からの相談等に対応し、支援している。また、関係性を大切に、支援が終了した後も対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居者の意思を尊重し、意見を聞き、支援している。困難な方は家族に相談したり、毎日の行動や仕草等から汲み取れるように努めている。	職員は利用者に接する際、些細な日常会話の中から、思いや意向、希望を把握することを常に意識している。また、職員間の申し送りやカンファレンス等から、利用者の情報を収集・共有し、利用者の思いや意向に沿った支援ができるように取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを参考にし、入居者個々に合った暮らし方を目指している。また、その都度、現状に合ったサービスの見直しを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の経過を記録に記入し、その人の過ごし方を把握して、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	作成する時は家族の意見も取り入れ、職員同士で話し合い、家族より了承を得ている。	日常の関わりの中で、自然と利用者の希望や意向を把握できるようにしている他、計画作成時には、利用者本人や家族の意向、全職員の意見を聞き、介護計画を作成している。また、長期目標6ヶ月、短期目標3ヶ月に設定し、3ヶ月に1回見直しを行い、個別具体的な介護計画を作成しており、家族の意向の変化も確認しながら、介護計画に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	記録することの大切さを職員同士で認識している。また、1日2回の申し送りの際は、記録を十分に確認することを徹底している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	近況報告や面会時に日常生活の様子等を伝え、家族からの要望等を聞き、入居者の現状に合ったサービスを提供するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	防災訓練の実施や行事への参加、近隣商店での買い物等を通じて交流を図っている。また、自治会との交流も行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療機関と連携を図り、月2回の往診を受けている。体調に変化がある時はその都度連絡し、指示を受けている。	入居時のアセスメントの際に、これまでの受療状況を詳細に確認しており、馴染みのあるかかりつけ医を継続できるようにしている。また、協力医療機関の往診が2週間に1回ある他、他の医療機関への通院についても、家族の協力を得ながら支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	ホーム看護師や協力医療機関の看護師と連携している。看護師から得た情報は常に現場に申し送り、共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いに行ったり、医療機関に連絡し、入居者の状態について情報を得ている。また、家族と連絡を取り合っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者や家族に終末期についての考えを伺い、希望に沿えるよう、医療との連携を図り、対応している。	指針を作成し、利用者が重度化した場合や終末期の対応について、ホームの方針を明確にしておき、入居時に説明している。また、重度化や急変時の対応について、状況に応じて関係機関で話し合い、意思統一を図っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルを作成し、研修を行い、緊急時に対応している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に火災や地震、夜間を想定した避難訓練を行い、消防署と連携を図り、指示を受けている。	年2回、火災と水害を想定した避難訓練を行っており、コロナ禍以降の立ち合いはないが、以前は消防立ち合いのもとで実施していた。消火器や警報器等の設備点検は、業者が定期的に行っている他、ホームでは災害対策に対する講習会も行い、日々の業務や職員の資質向上を図っている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室訪問時のノックや排泄時等の羞恥心の尊重、目線に合った声かけ等を行っている。	ホームでは利用者一人ひとりの尊厳を常に意識し、親身にしっかりと話を聞く姿勢を大切にしており、利用者への呼びかけは「さん」付けで行っている。また、利用者対応での気づきは、より良い支援に向けた大切なものと意識し、職員同士で共有して支援に活かしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の要望を聞き、決定できるようにしている。意見が少ない入居者には、どちらか選んでもらう等、工夫をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事や就寝時間等、本人の生活歴を踏まえ、可能な限り、本人のペースに沿って支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	衣類等は自分で選んでもらっている。定期的に訪問美容師に来てもらい、本人の希望の髪型等の対応をしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立はできるだけ入居者の希望を反映している。片付け等を一緒に行っている。	利用者一人ひとりの嗜好を把握し、季節の食材を取り入れ、栄養バランスを意識した献立としている。食事は職員も同じテーブルで行い、利用者と同じ環境、同じ視点で観察しながら、食事の支援を行っており、利用者ができる事は、可能な限り見守る姿勢を大切にしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事量、水分量を把握している。水分はいつでも摂れるよう、常時、飲み物を準備している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後及び起床・就寝前に、声かけや一部介助にて口腔ケアを行い、清潔保持に努めている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し、失禁や失敗が少なくなるように努めている。	利用者一人ひとりの日々の排泄状況を記録し、職員は事前誘導するタイミング等を把握しており、月1回の職員会議でも話し合い、排泄の自立に向けて取り組んでいる。また、排泄がうまくできなかった場合でも、他の利用者に気づかれぬよう、声かけや声の大きさにも注意し、利用者の自尊心を傷つけないように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	身体を動かしていただくように声かけをしたり、食物繊維の多い食事を提供する等して取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた支援をしている	毎週の入浴日を決め、入浴時間の希望や体調に合わせて行っている。	利用者の負担を減らせるよう、利用者一人に対して職員二人体制で入浴介助を行い、安心安全に入浴できるように支援している。入浴の拒否がある場合には無理に勧めず、着替えや足浴等で対応する等、利用者の思いを尊重して対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温湿度に注意し、座っている時間等を考慮して対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入居者の薬の副作用等を把握し、看護職員の指導を受け、周知しながら行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	軽い作業等、入居者の負担にならないよう、楽しめる時間を作るようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行かないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者の希望に沿って、散歩や買い物に出かけたり、町内の行事に参加している。	天気の良い日は近所の花壇に散歩に出かけたり、ホーム敷地内の家庭菜園で農作業をする等、可能な限り戸外に出る機会を設けている。今年は猛暑のために外出行事は控えていたが、夏はねぶたを観たり、近所のスーパーで買い物をする等して、利用者の気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分で金銭管理ができる方については、支払いの見守り支援をしている。買い物の要望がある時は、同行する等の支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から「電話をかけたい」という要望がある時は、子機を使用して、居室でゆっくりと話をさせていただいたり、携帯電話を使用できる方は、自由に使ってもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめな温度調整により、不快感を与えないよう配慮し、季節の花を飾る等して、空間作りを行っている。	ホーム内の所々に絵画や観葉植物が置かれ、開放感のある大きな窓からの陽射しにより、全体的に明るく、家庭的な雰囲気である。また、温度・湿度計を設置し、快適な環境となるように管理しており、職員や利用者の話し声、テレビの音量等も適度な大きさとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファや小上がり等を置き、入居者同士で思い思いに過ごせるよう、居場所作りの工夫をしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物の持ち込みの他、家族の写真、位牌等を置き、入居者が落ち着いて過ごせるように工夫している。	各居室にはエアコンやベッド、タンスが備えられており、テレビや衣装ケース、家族の写真等、思い出の品が持ち込まれている。また、持ち込みが少ない場合には、ホーム行事の際に撮影した写真を飾る等して、一人ひとりに合った居室作りに努めている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の名前やトイレの表示等を、入居者の目線に合わせて貼っており、階段及び廊下に手摺りを付け、運動等が安全にできるようにしている。		